

# 調査委員会における調査研究報告書

教科名（特別の教科道徳）

No. 1

調査研究の観点	所 見		
	発行者（東京書籍） 発行者番号（2）	発行者（学校図書） 発行者番号（11）	発行者（教育出版） 発行者番号（17）
1 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3学年以上に、問題解決的な学習に対応した教材を掲載している。</li> <li>○ 全学年で、宮沢賢治など、先哲の伝記等で取り上げられている著名な人物や黒柳徹子や池江璃花子など現代的な人物を扱っている。</li> <li>○ いじめ防止に関する内容の教材が全学年で配置され、各学年で2つの教材を組み合わせたユニット形式を取り入れている。</li> <li>○ 情報モラルに関する内容の教材を発達段階に応じて、段階的に配置している。</li> <li>○ 東京オリンピック・パラリンピックに関連する教材を取り上げている。</li> <li>○ ESD教育に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が全学年に設定されており、児童の主体的な学習が促されるようにしている。</li> <li>○ 巻末に学習のまとめを記載するページがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「きづき」と「まなび」の2分冊設定をしており、児童が主体的に道徳的課題に気づき、焦点化して考えられるようにしている。</li> <li>○ 全学年の巻末に「ふるさとコラム」が配置されており、地域の特色に興味・関心をもてるよう、工夫されている。</li> <li>○ いじめ防止に関して繰り返し学べるよう、全学年で教材が並列されている。</li> <li>○ 情報モラル教育に関して、生活の場面に即した内容の教材を配置している。</li> <li>○ スポーツに関連する教材を取り上げている。</li> <li>○ 防災や自然災害に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が全学年に設定されており、児童の主体的な学習が促されるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の最後に多様な問いを設定されており、児童が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。</li> <li>○ 全学年で、歴史や文化、スポーツなどで業績を築いた著名な人物を扱い、先人の生き方や考え方に触れられるようにしている。</li> <li>○ いじめ防止に関する内容の教材が全学年で配置されている。</li> <li>○ 全学年を通して、情報モラル教育に関する内容の教材を配置している。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピックで活躍した人物等を取り上げている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されており、児童の主体的な学習が促されるようにしている。</li> </ul>
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのか、他教科と関連させた一覧表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合は <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 25.8%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 22.5%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 31.1%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 20.6%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、980ページである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで「読みもの」と「活動」の二分冊で構成されている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 27.8%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 22.0%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 33.0%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 17.2%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、792ページである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 27.3%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 21.5%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 33.0%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 18.2%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、908ページである。</li> </ul>
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 方言を使用している場合は、括弧書きの標準語で意味を添えている。</li> <li>○ 文字の大きさは、やや小さめである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、標準的である。</li> <li>○ 低学年教材では、分かち書き、文節改行を施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、標準的である。</li> </ul>
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 教材名の隣に、内容項目を表現する一文や授業で考える視点に関する記載がある。</li> <li>○ 教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、1つずつ精選されている。</li> <li>○ 「つながる・広がる」のページで、各教科等との関連を明示している。</li> <li>○ 朗読用CDやデジタルの場面絵など、付属教材が豊富にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで「読みもの」と「活動」の2分冊になっている。</li> <li>○ 教材名のみ記されている。</li> <li>○ 「読みもの」の冊子には発問を掲載せず、「活動」の冊子では、教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、内容項目ごとに配列されている。</li> <li>○ 教材ごとにQRコードがついており、ITの活用で、児童の読みの理解を助ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 教材名のそばに、内容項目を表現する一文や授業で考える視点に関する記載がある。</li> <li>○ 教材ごとに、1/3～1ページのスペースで「考えよう・深めよう・つなげよう」という項目があり、教材の内容に関する発問、自分自身を振り返る発問、今後に向けての発問が掲載されている。</li> <li>○ 「やってみよう」のページで課題解決に向けたロールプレイや考察について示している。</li> </ul>

# 調査委員会における調査研究報告書

教科名（特別の教科道徳）

No. 2

調査研究の観点	所 見		
	発行者（光村図書出版） 発行者番号（38）	発行者（日本文教出版） 発行者番号（116）	発行者（光文書院） 発行者番号（208）
1 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年の教材冒頭に、キャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されている。</li> <li>○ 音楽会・遠足・保護者参観など、学校行事を題材とした教材が選定されている。</li> <li>○ いじめ防止に関する内容の教材が全学年で配置され、各学年で読み物教材とコラムを組み合わせたユニット形式を取り入れている。</li> <li>○ 情報モラル教育に関する内容の教材もユニット形式で配置している。</li> <li>○ コラムにオリンピック・パラリンピックが取り上げられている。</li> <li>○ 東日本大震災など、防災や自然災害に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生で小1プロブレム解消をねらい、教材をかるた風にイラストや写真のみで表している。</li> <li>○ 全学年を通して、北海道から九州まで、全国各地の素材が教材化されている。</li> <li>○ いじめ防止をテーマとしたユニット「人との関わり」は学期に一回、年間三回配置され、重点的に取り組めるようになっている。</li> <li>○ 情報モラル教育に関しては、高学年で情報セキュリティなどに関わる内容も掲載されている。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピックに関連する教材を取り上げている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年に絵やマンガ、写真の資料を基に考える教材が多く扱われている。特に低学年は多く配置されている。</li> <li>○ 全学年で、先哲の伝記等で取り上げられている著名な人物を20人扱い、また、長く親しまれている定番資料も豊富に配置されている。</li> <li>○ いじめ防止に主体的に関われるように全学年にコラム「みんな仲良し楽しい学校」を配置している。</li> <li>○ 情報モラル教育に関する内容の教材を配置している。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピックに関連する教材を取り上げている。</li> <li>○ 防災や自然災害に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されている。</li> </ul>
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのか、他教科及び現代的な課題と関連させた一覧表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 26.3%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 24.9%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 33.0%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 15.8%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、1112ページである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成が第1学年から第6学年まで年間1冊となっており、全ての学年に発問と記入欄が示されている「道徳ノート」が付属されている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 27.3%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 23.4%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 34.0%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 15.3%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、1040ページである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 23.9%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 24.4%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 34.4%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 17.3%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、1040ページである。</li> </ul>
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、やや小さめである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、標準的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、標準的である。</li> </ul>
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで「読みもの」と「活動」の二分冊になっている。</li> <li>○ 教材名横に、内容項目を表現する一文や考える視点を記載している。</li> <li>○ 教材ごとに、1/3～1ページのスペースで「考えよう・話し合おう」という項目があり、考え方の視点、教材の内容に関する発問、自分自身を振り返る発問が掲載されている。</li> <li>○ 各教材にQRコードを用いるウェブ資料「広がる学び・深まる学び」が付き、児童の理解を手助けしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで「読みもの」とそこに収納できる「活動」の二分冊になっている。</li> <li>○ 教材名の隣に、内容項目を表現する一文、授業で考える視点に関する記載、教材のあらすじが記載されている。</li> <li>○ 教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、1つずつ精選されている。</li> <li>○ 「学習の手引き」ページで教材を自分ごととして捉えさせるための道筋を示している。</li> <li>○ 別冊の「道徳ノート」に自由記述欄が設けられており、多様な考えを引き出せるよう、工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、変形A4判で、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 教材名の隣に、内容項目を表現する一文や授業で考える視点に関する記載がある。</li> <li>○ 教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、1つずつ精選されている。</li> <li>○ 教材名の下に登場人物をアイコン化したものを掲載し、児童の読みの理解を手助けしている。</li> </ul>

# 調査委員会における調査研究報告書

教科名（特別の教科道徳）

No. 3

調査研究の観点	所 見		
	発行者（学研教育みらい） 発行者番号（224）	発行者（廣済堂あかつき） 発行者番号（232）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「特定の価値観を押し付けない」「子供の問題意識を大切にすること」をねらい、教材の冒頭に主題名を記載していない。</li> <li>○ 全学年を通して、全国各地の素材が教材化されている。</li> <li>○ いじめ防止に関する内容の教材が全学年で配置されている。</li> <li>○ 情報モラル教育に関する内容の教材を配置している。</li> <li>○ 全学年において、オリンピック・パラリンピックで活躍する人々などの教材を取り入れている。</li> <li>○ 東日本大震災など防災や自然災害に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されており、児童の主体的な学習が促されるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年で、先哲の伝記等で取り上げられている著名な人物や様々なジャンルで活躍する人物を45人扱っている。</li> <li>○ いじめ防止に関する内容の教材が高学年で配置されている。</li> <li>○ 情報モラル教育に関する内容の教材を配置している。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピックに関連する教材を取り上げている。</li> <li>○ 防災や自然災害に関する教材を扱っている。</li> <li>○ 役割演技など、体験的な学習を促す設問が、全学年に設定されている。</li> </ul>	
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合は <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 28.2%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 24.9%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 27.8%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 19.1%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、916ページである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成が第1学年から第6学年まで年間1冊となり、全ての学年に発問と記入欄が示されている「道徳ノート」が付属されている。</li> <li>○ 目次の他に、四つの視点をどの教材で学んでいくのかが一覧できる表がある。</li> <li>○ 視点ごとの分量の割合は <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主として自分自身に関すること」 30.6%</li> <li>・「主として人との関わりに関すること」 23.9%</li> <li>・「主として集団や社会との関わりに関すること」 30.1%</li> <li>・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 15.4%</li> </ul> </li> <li>○ 第1学年から第6学年までの総ページ数は、796ページである。</li> </ul>	
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 行数表記がある。</li> <li>○ 文字の大きさは、やや大きめである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が興味・関心をもてるような写真・挿絵が挿入されている。</li> <li>○ 児童が習っていない漢字や、地名・人名等の固有名詞には振り仮名がふられている。</li> <li>○ 文字の大きさは、標準的である。</li> </ul>	
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、A4判で、第1学年から第6学年まで年間1冊となっている。</li> <li>○ 教材名の横に内容項目を分類する4つの視点を掲載している。</li> <li>○ 教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、1つずつ精選されている。</li> <li>○ 学び方のページ「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」を設け、多様な学びを提示している。</li> <li>○ 教科用図書に自分の考えや思いを書き込むことができる。</li> <li>○ 物事を多面的・多角的に考えることができるように、他者の考えを聞いた上で、自分の考えとその理由を書き込めるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冊子の構成は、AB判で、第1学年から第6学年まで「読みもの」と「活動」の2分冊になっている。「活動」冊子は、「読みもの」冊子の中に収納できるようにになっている。</li> <li>○ 教材名の隣に、内容項目を表現する一文がある。</li> <li>○ 低学年では、教材の内容に関する発問と、自分自身を振り返る発問が、1つずつ精選されている。中・高学年では、「学習の道すじ」として、考え方の視点を提示し、その後、教材の内容に関する発問が2つ、自分自身を振り返る発問が1つずつ掲載されている。</li> <li>○ 分冊の「道徳のノート」には自分の考えなどを書き込むことができ、評価のてがかりとすることができる。</li> </ul>	